



子ども議会だより



横浜小学校6年生の子ども議員（2月5日開催）

～目次～

子ども議会開催

1番 広報グループ	2
2番 守ろう伝統文化グループ	3
3番 税キッズ	
4番 キッズチーム	4
5番 水産物グループ	
6番 海岸清掃チーム	5
7番 特産品グループ	
8番 町を守り隊	6





子ども議長の大澤練斗くん
子ども副議長の天間佑樹くん



町長より挨拶



議長より挨拶



2月5日、時代を担う児童に、議会制民主主義の理解や横浜町のまちづくりに関心を深めてもらうことなどを目的に、横浜小学校6年生による「子ども議会」を開催しました。
子ども議会の開催は町議会としては3回目です。開催にあたっては、一般質問、再質問を班ごとに考え、当日の子ども議会に臨みました。
当日は、8グループ、8項目について、町長の考えを問いました。



横浜町の広報を利用して 町の魅力を全国に広めてほしい

1番 広報グループ

田村 燎^{りょう} 議員
杉山龍太郎^{りゅうたろう} 議員
加福 桜華^{りりか} 議員
中山友里愛^{ゆりあ} 議員

問 現在横浜町では、「広報よこはま」を発行して町の様子を町民に伝えています。市町村の広報誌について、インターネットで調べていくと「全国広報コンクール」というものがあると知りました。そこで、私たちは、全国広報コンクールで最優秀賞をとることができるように、広報にさまざまな工夫をしていくことを提案します。横浜町の広報で町の魅力を伝え、それを全国の人たちに見てもらうことで、町を訪れる人が増えたり、豊かな町になっていくと考えます。

答 現在の広報誌は町内への発信内容が多くなっており、全国の人へ横浜町の魅力を伝えるためには、町のホームページやスマートフォンなどを利用したネットワークサービスを通じた発信、旅行雑誌など全国誌を利用したPRなど幅広く広報活動を行っていかなくてはならないと考えています。

広報よこはまについては、「伝える」広報から「伝わる」広報へ変えていきつつ、掲載内容を検討し、広報コンクールで賞をいただけるよう努力してまいります。



横浜町の伝統文化を 次の世代に伝えてほしい

2番 守ろう伝統文化
チーム

濱田 こうせい 晃生 議員
保坂 まほ 真穂 議員
坂上 ゆづな 結菜 議員
船橋 ほのか 歩佳 議員

問 横浜町にはたくさんの伝統文化があり、その中に「能舞」があります。伝統文化をしつかりと守っていくために、子供たちにもっと伝統文化に触れる機会を増やすことを提案します。伝統文化を学ぶ機会をつくることで、子供が自分の住む地域の伝統について考えるきっかけとなり、後世に残していくきっかけとなると思います。

答 「能舞」について、学校における総合的な学習の時間で対応が可能であれば、工夫をしながら横浜小学校地域協働本部事業などとして、地域の伝統を学ぶ場づくりなどを検討したいと思います。

伝統文化に興味を持っていただきながら、地域の伝承活動をするには、今後、学校や地域の団体に相談し、どのような方法が可能であるかを確認しながら、「後世に残していくきっかけづくり」を模索していきたいと思います。



横浜町で集める税金を増やして 生活環境整備に使えないか

3番 税キッズ

小川 ゆたか 裕 議員
三浦 れあ 怜愛 議員
佐藤 ちえり 千絵莉 議員

問 今年は雪が多く降り、道路にたくさん雪が積もっている様子をよく目にします。そこで、私たちは、横浜町の町税を増やし、それを土木費に充てて、除雪や道路の整備に使うことを提案します。確かに税金が増えることは、町民にとって負担になります。しかし、税金はみんなが豊かに暮らすための会費です。一人一人からお金を集めてそれを除雪や道路整備に使うことは、結果として住みやすいまちづくりにつながると考えます。

答 税金を増やすためには、横浜町に多くの方が暮らし、人口が増えるような魅力あるまちづくりに取り組むことが重要であると考えています。

そして、町民から納めていただいた大切なお金を道路の整備や除雪などの土木費のほか、みんなが通う学校やスクールバスなどに使われる教育費、火災や災害などからみなさんを守る消防費など様々な分野に有効に使い、町民のみなさんが困ることがないように安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいきたいです。



横浜町をPRする イベントができないか

4番 キッズチーム

秋田 ^{とうま}燈摩 議員
佐藤 ^{ゆき}幸弥 議員
濱辺 ^{かえん}華園 議員
坂下 ^{まりか}茉莉香 議員

問 横浜町はホタテの養殖が盛んです。この横浜町のおいしいホタテがもっと広まっていくと豊かな町になっていくと思います。そこで、私たちは、横浜町のホタテをPRするイベントを提案します。開催時期は1月や2月です。冬場に開催することによって菜の花フェスティバル以外の季節にもお客さんをお呼びできると思います。横浜町を紹介するイベントを開催することで、魅力がさらに多くの人に伝わり、町の活性化につながると考えます。

答 平成31年3月に菜の花プラザにおいて「横浜ほたてフェア」を開催して、通常価格からフェア価格に値引いたり、旬の稚貝のメニューを加えたりして、横浜ほたてのPR活動をしました。

菜の花が咲き誇る時期の菜の花フェスティバル以外での来町者が増えるよう、また、横浜町を訪ればホタテの新しい魅力の発見を紹介できるよう、おいしい養殖ホタテを育てる漁師さんたちや飲食店と協力しながら町の活性化につなげたいと思います。



横浜町のキッチンカーを活用した ホタテなどの水産物の販売について

5番 水産物グループ

深澤 ^{はると}遥斗 議員
高橋 ^{じょういちろう}丈一郎 議員
大澤 ^{あすか}明日果 議員

問 横浜町には漁業を行っている人が多くいます。横浜町の魅力である水産物がもっとたくさんの人に食べてもらえるとよいと考えます。そこで、私たちは、横浜町のキッチンカーで横浜町の水産物を販売することを提案します。今までとは違う形で販売を行うことによって、より多くの人に横浜町の水産物に触れてもらうことができ、豊かな町づくりにつながると考えます。

答 キッチンカーで横浜町の水産物を販売することは、横浜町の魅力である新鮮な水産物の調理方法や扱い方を見せることができ、新たなファンを増やすための有効な販売方法の一つと考えられます。

キッチンカーやイベント会場など、実際に人との会話や触れ合う販売方法やインターネットを活用した販売方法など、効果的に横浜町の水産物の消費拡大を実施させ、豊かなまちづくりにつながるよう、漁師さんから販売するまでの関係者と検討していきたいです。



海のゴミを減らす 取り組みについて

6番 海岸清掃チーム 若佐 ^{かんなり} 勘成 議員
外井 ^{みゆ} 心結 議員
菊地 ^か ほの香 議員

問 横浜町には豊かな自然があります。しかし、現在、海がきれいに保たれているとは言えません。そこで、私たちは、漁業を行った際にかかったごみを、漁業者が回収し、それを今度は町で回収して処分することを提案します。ごみをしっかりと海から取り除く取り組みを徹底することで、横浜町の海がよりきれいになり、生活しやすいまちづくりにつながるのではないかと考えます。

答 漁師が扱う漁法で、底引き網漁業と呼ばれるものがあります。これは、海底で網を曳く漁業で、魚などの海産物とともにゴミが混入します。そのときに、混入したゴミを漁師の人たちに陸上まで運んでもらい、処理する体制ができれば、海のゴミ回収が簡単にできるようになります。

12月のなまこ漁の時に底引き網による海底清掃を5日間行っておりました。海底清掃で回収されたゴミは、産業廃棄物事業者をお願いして処理しています。



横浜町に新しい特産品を作って 他の都道府県へPRできないか

7番 特産品グループ 矢澤 ^{こたろう} 虎太郎 議員
前田 ^{やまと} 大和 議員
秋田 ^{はるひ} 陽妃 議員

問 横浜町は菜の花やナマコが有名です。そんな菜の花やナマコに負けない新しい商品を開発してその商品をいろいろなところでPRすることを提案します。PRの方法として、アンテナショップを大都市につくったり、YouTubeで動画を流したりすることができるのではないのでしょうか。そのことによって、横浜町の特産品が有名になり、たくさん売れるようになれば、町が豊かになることにつながると思います。

答 最近では、「ほろよい豚」がブランド肉として確立し、また、町のふるさと納税のお礼品は、横浜町でとれ、加工された特産品が揃っており、生きホタテ、菜の花はちみつ、ほろよい豚、菜種油などお礼品としてだけでなく特産物のPRも兼ね、販売促進につなげています。

また、直接現地に行かなくてもインターネットを活用した販売や、YouTube動画を活用してすでに農家の方や漁業者の方が、横浜町で生産される商品紹介や素材の新たな魅力をPRしてくれています。



横浜町の子育て支援について

8番 町を守り隊

坂下 玲磨^{れい ま} 議員
白浜 陽^{はる} 議員
小川 歩希^{ほまれ} 議員
長谷川 明^{あき} 議員

問 横浜町では現在人口が減り、その中でも子供が減ってきている様子が見られます。未来の横浜町を発展させていくためには、それを支える子供たちを増やしていかなければなりません。横浜町では、育児相談やおひさまルームなどさまざまな取り組みが行われています。もっと詳しく調べてみたいと思い、インターネットで検索してみましたが、横浜町の子育て支援に関する取り組みを見つけることができませんでした。そこで、私たちは、にこにこセンターのホームページを作ることを提案します。今は、多くの人がスマートフォンをもち、手軽に情報を調べられる時代です。インターネットに情報があることで、どんな取り組みがなされているか簡単に調べられるようになり、利用しやすくなると思います。

答 育児相談や子育て中の親子を対象としたおひさまルームなどは個別に手紙やポスター掲示などでお知らせしています。妊娠届け出や乳幼児健診などの母子健康情報については、町のホームページに掲載しています。

町としての子育て支援は、出産祝い金や高校生までの子ども医療費の無料化、保育料の無償化などが行われています。今後、にこにこセンターで行われている子育て支援についても町ホームページを活用して情報発信に取り組んでいきたいと思っています。

子ども議員の 感想



秋田陽妃さん

「なるほど」と思いました

能舞の出前講座を提案しましたが、地域保護者の連携を深めようと言われ、その通りだなと思いました。



濱田晃生くん

「緊張しました」

特産物の開発を提案しました。いろいろ考えているのだなあと思いました。



小川歩希さん

「声をきいてくれて嬉しい」

子育て支援についていろいろ答えてもらいました。